

下妻市総合教育会議（令和５年１月２６日）会議録

１．開催日時	令和５年１月２６日（金） 午後１時３０分 開会 午後３時００分 閉会
２．開催場所	下妻市役所本庁舎 ３階 中会議室
３．出席委員	市 長 菊池 博 教 育 長 中山 均 教育長職務代理者 齊藤 修一 委 員 青木 由美 委 員 赤荻 由美 委 員 山口 政志
４．委員以外 の出席者	教育部長 倉持 総男 教育部参事 圓崎 佳江 学校教育課長 國府田 聡 生涯学習課長補佐 飯村 淳子 図書館兼公民館長 吉 川 淳 学校教育課長補佐 板橋 孝子 学校教育課係長 北沢 祐一
５．議事録署名人	青木 明美委員
６．協議事項 及び研修	（１） 学校の適正規模適正配置及び学校給食について （２） 休日部活動の地域移行について （３） コミュニティー・スクールの導入について （４） 図書館における子どもの読書活動推進とＤＸについて
７．議事の概要	
教育部長	大変お忙しい中、下妻市総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。会議に先立ちまして、先の市議会定例会におきまして、議会の同意を得て、１月２０日から再任となっております青木委員に対する辞令交付式を執り行わさせていただきたいと存じます。それでは青木委員におかれましては前の方をお願いします。市長、よろしくお願いします。
市長	【辞令交付】
教育部長	それでは、ただいまから、令和４年度下妻市総合教育会議を開催さ

	<p>せていただきたいと思います。私は、下妻市教育委員会教育部長の倉持でございます。本会議は、市長及び委員会で構成し、市長が招集すると設置要綱に規定されておりますが、本日の形式的な進行につきましては教育委員会事務局で行うことといたしまして、私が務めさせていただきます。また会議の内容でございますが、こちらは議事録を作成いたしまして公表することとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは会議の開会にあたり、菊池市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
市長	<p>【挨拶】</p>
教育部長	<p>ここで議事録署名人を選出していただきたいと存じます。特にご意見等がなければ、教育委員会、青木委員に議事録署名人をお願いしたいと思います。ご異議等ございませんでしょうか。</p>
一同	<p>お願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、青木委員に議事録署名人をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。本日の案件は、（１）学校の適正規模適正配置及び学校給食について、（２）休日部活動の地域移行について、（３）コミュニティ・スクールの導入について、（４）図書館における子どもの読書活動推進とDXについて、以上４つであります。お手元に資料を配布させていただいております。尚、議事の進め方でございますが、時間の関係もございますので、先に４つの案件全てにつきまして説明を一括して行わせていただきまして、その後、案件ごとに意見交換をお願いしたいと存じます。</p> <p>それでは早速、説明の方を初めさせていただきたいと思います。</p> <p>初めに（１）学校の適正規模適正配置及び学校給食につきまして、事務局学校教育課から説明いたします。</p>
学校教育課長	<p>【学校教育課から資料により説明】</p>
教育部長	<p>それでは次に（２）休日部活動の地域移行について、指導課からご説明いたします。</p>
参事	<p>【指導課から資料により説明】</p>

教育部長	次に（３）コミュニティ・スクールの導入につきまして事務局、生涯学習課からご説明いたします。
生涯学習課補佐	【生涯学習課から資料により説明】
教育部長	次に、（４）図書館における子どもの読書活動推進とＤＸにつきまして、事務局、図書館からご説明いたします。
図書館兼公民館長	【図書館から資料により説明】
教育部長	ただいま案件の（１）から（４）までのご説明をさせていただきました。いずれの案件も現在、本市の教育行政におきまして大きな課題テーマとなっているものでございます。ここで各案件につきまして、皆様に意見交換をお願いしたいと存じます。意見交換の進行につきましては、教育長をお願いいたしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
教育長	それでは、これから意見交換をしていきたいと思ひんですけども、率直な自由闊達な意見交換会にしたいと思ひますので、自由に意見を述べていただければありがたいと思ひます。４つの項目の順番に進めていきたいと思ひます。最初に、学校の適正規模適正配置と給食センターについてです。ご意見等ありますか。
齊藤委員	まず、学校給食についてです。この資料を見ると、自校方式の給食の方は、老朽化が進んでいる。千代川地区については、センター方式ということで今後の検討ということですが、現在の委託のセンター方式を変更して、下妻市として給食センターを建設してやっていこうというふうな考えは、ある程度、市の方では固まっているのでしょうか。
学校教育課長	私から答えさせていただきます。まず、こちらの方は、案件として出させていただいた背景において、常総市との委託期間の満了というのが１つございます。資料をご覧いただきたいと思うのですが、前半のところの令和８年度のところを見させていただきますと、こちらで常総市との給食事務委託協定期間の満了と書いてございます。一

	<p>且、ここで常総市に委託するというのが終わりますので、この後、どうするかというのが1つ、ターニングポイントになります。仮に、少し延長してくださいということで、その希望が通ったとして、これがいつまでお願いができるのかというのは非常に不透明な状況でございます。そういった中で、今後はどうするか、給食センターを作って、下妻市を1つにまとめてやった方がいいのか、これを検討して決めていかないとならない時期にきてるのかなということで、方針が明確に決まったという訳ではございませんが、決めなくてはいけない時期にきたということで、今回、資料を作成させていただいております。以上でございます。</p>
齊藤委員	<p>はい、ありがとうございます。そうしますと、もし、給食センターに移行する場合には、その時の予算というものを考えると、市の方でも、かなりの予算が必要だと思うんですが、そのあたりは今後、方向性が決まった段階で、予算の方が確定していくという形になる訳ですね。</p>
学校教育課長	<p>同じ9ページの資料で、前半のところに適正規模適正配置検討支援業務委託というものを掲載させていただいてます。令和5年度が1年目、令和6年度が2年目ということで、学校の適正規模適正配置とあわせまして給食のあり方についても、同時進行で検討をさせていただく予定です。例えば、予算についてもどのくらいかかるのかとか、どういう規模が適切なのか、こういったものをこれから資料を検討し、アンケートをとったり、必要なものを集めたりして検討を深めていくというようなことで考えております。以上です。</p>
齊藤委員	<p>状況に応じてということですね。</p>
教育長	<p>玉給食センターについては、常総市さんの方のお考えもあると思います。玉給食センターを存続させるのか、ある年度で終わりにするのかというのに関わってくると思います。玉給食センターの今後については、まだ、決定されていませんが、もし終了ということになれば、本市でも玉給食センターに委託できなくなりますので、このような考えも進めていかないといけないという状況ということで。</p>
齊藤委員	<p>ありがとうございます。</p>

教育長	はい、赤荻委員さん。
赤荻委員	<p>全体像とビジョンを意識しないといけないと思います。私は、ここに今日出ている案件というのは、ある意味、人口が減ってきているという、少子高齢化というところが大きいと思います。人口動態というのは、非常にデータとしてはエビデンスがあると思っています。その中で、人口が縮小していくということは、環境とか、空間とか、そういったものも縮小していく、凝縮させていかざるおえないということかなと考えます。その考えからすると、やはり給食センターを1つにするとか、あるいは学校の適正規模とか、適正配置、いわゆる統合するののかという部分は、これはすすめていかないとかならないのかなと思います。なので、少子化対策というふうに私は思っています。</p> <p>下妻市の場合は蚕飼小学校の統合ということがありましたが、関係者の方にお話を聞くと、やっぱり長い期間がかかるということで、3年とか5年というスパンで達成するということを意識しながらすすめていくことが必要かと思います。それから学校の検討をするうえでは、方向性がばらばらにならないよう、見失わないようにすることも必要だと思います。頓挫しないよう旗印が必要だと思います。保護者に対しては、競争力をつけるような学校とか、新しくグローバル化をめざすとか、多様性を認めるなどという新たな観点から、新しい学校を目指すというところを理解してもらったりすることが大切なのではと思います。そういったところが旗印としては考えられるかなと思います。少子化対策なんだという意識を忘れないようにしたいなと思いました。</p> <p>それから、もう1つ、新たな事業について、いつまでに何をやるかというのを決めるのも大切ではないかと思います。優先順位は考える必要があるかと思います。</p>
教育長	青木委員さん。
青木委員	<p>蚕飼小学校が廃校になった時に赤荻委員さんがおっしゃったように、若い世代の保護者の方は、子どもさんがたくさんいてクラス替えがあつてというのが希望だと。若いお母さんたちは、そういう考え方にもっていくと、検討が深まるのではと思いますけど、自分の地域の学校が無くなるという、お年寄りの方たちの心の問題もすご</p>

	<p>くあると思います。時間をかけて丁寧に説明をしていただいて、みんなで相談をして、理解を得て、すすめていくことが一番だなというふうに考えています。</p> <p>それと部活動なんですけど、今年、先生を希望される方が少なくなったというお話を耳にした時に、部活動ということがネックになっているような話も聞きました。先生方は今まで本当に自分たちの時間を削って部活動を担当してくださってたんだなということが良くわかりました。それなので、この部活動が変わりますという説明を保護者の方たちにしていただき、理解を得ていただければと思っています。部活が大好きな子もそうじゃない子もみんな週末に楽しく過ごしていければいいなというふうに感じます。</p>
教育長	はい、山口委員さん。
山口委員	<p>学校給食について、資料を見て、給食設備の老朽化というのが、それぞれの学校によって程度が違うと思うのですが、補修しながら使っているのでしょうか。また、下妻小学校を改修している時に見たのですが、改修後に、調理員さんと話す機会があり、すごく良くて快適ですという話を聞きまして、他の学校の状況はどうかというのは疑問に思ったところであります。以上です。よろしくお願いします。</p>
学校教育課長	<p>まず、自校式のいわゆる比較的小さい学校、今、老朽化しているということですが、理由としましては、実はこの学校給食のあり方を考えるということは、今、始まったことではなくて、以前から何度も検討はされてて、ただその時の状況で、明確に今まで結論が得られずに検討を重ねてきたような状況がございます。そういった中で、大規模な投資というのが困難な状況がありましたので、この6校につきましては、修繕をするというようなことで対応しています。壊れれば直すという形です。一方で下妻小学校につきましてはある程度、児童数も多い学校で、例えば、この一例のように下妻小は当面、自校式というような考え方もあるということです。そこは一定程度、設備の改修をして、今現在、そういった形で運用はしていますが、これをこのまま続けるというのも、なかなか常総市との委託の関係もあるので、今がおそらくどうするかを決めるのには最も適当な時期になっているのかなと思います。そういった訳で今回こういうふうに課題に挙げさせていただいてまして、今後も自校式</p>

	<p>でやるということが決定されれば、これを建て替える、更新するという考えもあるかと思うんですが、その決定はこれまでなされてないので修繕で対応してきたとそういった状況でございます。小さな学校は2人の調理員の学校もあり、やっぱり2人きりでやるということは、1人あたりの食数が大きく変わったり、1人が休んだ時の負担が大きかったり、仕入れなども煩雑になったり、色々それはそれでデメリットもあったりもしますので、そういった意味ではセンター化は効率だけを見れば、やはり効果があるものなのかなというふうには考えられます。以上でございます。</p>
教育長	<p>よろしいですか。今まで出た委員さん方からのご意見で、赤荻委員さんから少子化の問題が出ました。青木委員さんからは部活動の話が出ました。そのコミュニティという概念については、少子化が進むんだから今までと同じコミュニティだと持続可能ではなくなります。学校もそうです。なので、コミュニティを広げるしかない。広げて持続可能なものにするというのが、今、委員さんの話を聞いて感じたところです。学校でいうとどういうことになるかということコミュニティを広げて、つまり学校を広げるということですよ。具体的な結論はおいといて、そういう発想でこれからやっていかないといけないのかなというのを感じました。コミュニティ・スクールもそれぞれの学校での聞き取りをすると、やっぱり自分の学校でのコミュニティスクールをまずやりたいという意見が多かったです。そのため、活動は学校単位となります。この後の部活動に出てくるんですけども、コミュニティを広げることによって学校から地域へ移行するんじゃなくて、地域で展開する部活動という考えにしたいなと思っています。学校は地域の中の一部ですので、学校が地域に移りますという考え方ではなく、学校が存在する地域の中で部活動を展開しますという発想でもっていきたいなと思っています。なので、クラブチームを今は行政で立ち上げるということで、進めています。場合によってはコミュニティ・スクールで立ち上げますなどという声が出てくるかもしれません。そこはどうかかわからないですけども、柔軟に対応していきたいなと思っています。学校の適正規模適正配置、給食センターについてはその他、何かございませんか。</p>
市長	<p>学校の適正配置と給食センター両方ともですね、赤荻委員さんが言われたように少子化が時代背景にあると思います。今は、子どもた</p>

	<p>ちは、たぶん今年250人ぐらいしか1年間で生まれないですよ。先日の成人式をやった子どもたちは500人ぐらいいたんですよ。丁度、20年で半分になってしまった。ということは、学校も今あるものが、結局は20年後にどうなるのかという話は、おのずと回答は出てくると思うんですね。その時に学校の規模も考えなくてはならないし、給食センターも考えなくてはならない。自校方式の給食施設は、学校が縮小することによって、学校の数が減っていきますから、そうするとやっぱり自校方式の施設は今から作れないだろうなど。センター方式になっていくのかなと、時期的にはそんな感じだと思います。これは避けて通れない課題ですから、今やるしかないというのが実情ですね。さっき常総市の給食センターの話もありましたけども、あれは千代川村の時に石下町と一緒にやったものなんですが、やはりもう老朽化して、ある程度、期限を決めてやっているようです。それにこちらもあわせてしていかなきゃならないというのがあります。委託の期限もあるので、迅速にやる必要があると思います。</p>
教育部長	<p>給食委託の契約の仕組み上は、終了の5年前には通告するという形にはなっていますので、やらなくなるという通告を受けた後、5年間はあります。そういう流れのスケジュール感なんですけれども、ただそういった部分では、早く対応する必要があるとは思いますが。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。次の話題の部活動の地域移行について。はい、お願いします。</p>
山口委員	<p>部活動の地域移行ということで、今ある部活動というものを地域に移行するのか、新たにつくるのか。例えばですが、日本文化という観点などで考えると、お茶の先生がたくさんいらっしゃるので、茶道部を作るとかですと、先生はすぐ見つかるんじゃないかなと思います。また、農業の分野ですと、農業研究所とか、農作業をやっているところに部活で通ったり、一緒に作物を作ったりというものもあると思います。DXの分野とか、新たな部活を地域にあわせて、今の時代にあわせて考えると、広がるのでは思ったりもします。また、地域下妻市の観光大使のようなものも、下妻に詳しくなって、外から観光客が来た時に子どもたちが説明するような部活とか、どんどんアイデアを出して広がればいいなと思います。教育長がおっしゃったように地域で育てるとなると、外部ティチャーみたい</p>



青木委員	<p>な感じで、専門でやってる方が、例えば、日本の歴史について歴史の授業に専門家がいらっしゃったら、その方がその授業に入って先生と一緒に授業をすとか、そういう外部ティチャーみたいなものとか、今までは学校に地域が入るというイメージもあったと思うんですけど、それが逆に先生がおっしゃるように外に出る、地域に出るという考えとかもあったいいんじゃないかなと思います。指導は、地元の方なのか、地域外の人を採用するのか、あとは元先生なのか、民間の方かと色々あると思うんですけど、こういった方向になっていくのかなというのは楽しみではあります。</p> <p>地域に移行するという言葉で、何年か前から運動部に入る子たちも、サッカーだったり野球だったり、みんな地域のクラブチームに行くという、部活が様変わりしてきたことがあって、保護者の方たちからは、地域移行というと、週末にはそういうクラブチームに行ける子はいいいけど、そういうふうには運動が得意じゃない子たちはどうなるんだろうという話も聞いてました。それですから、移行じゃなくて、これからみんなでそこを展開していくんだという、まさにそういう転換なんだと思いました。得意な子たちだけがクラブチームに行ってどんどん伸ばしていくというのではなくて、みんなでどんどん育てて地域で展開していくという、先生からそのお言葉を聞いて腑に落ちました。</p>
赤荻委員	<p>つくば市で聞きましたが、部活動の地域移行化がすすんでるところですが、移行できた要因は2つあるだろうと思います。1つは、元々、PTAの人たちの中で、つくばの大学生とかの人材をいかして、より部活動を楽しくしようみたいなことをおっしゃられる保護者の方があり、熱心さには温度差はあっても、PTAの役員さん方が、積極的にすすめていったということです。あともう一つは、最終的にはお金の問題もあったようです。現実的に動き出すということになると、具体的なお金の話が出てきて、また保護者の負担についての課題があるようです。</p> <p>それから筑波大の学生がサッカーを教えに来てくれるとか、あとバスケットのロボッツですか、そのお知り合いの方とかが来てくれるとかというのは進みやすかったと聞きました。また、活動場所が確保できるようなサッカーとか、バスケとか、テニスとか、例えば、大きな公園の中で、活動場所が確保しやすいものなどは、わりとスムーズに進みやすかったようです。</p>

教育長	齊藤委員さん。
齊藤委員	部活動に関しては、平日は学校部活動をやって、土日だけ地域で展開する部活動になった場合には、全員、部活加入なのか、これは希望制なのですか。
教育長	希望制です。
齊藤委員	学校の部活動だけ入って、土日は行かなくてもいいというふうな訳ですね。
教育長	そういう選択肢もあります。逆に自分の学校にはない部活動をやりたくて、自分の学校にはない部活動を土日に希望してやるということも可能になります。
齊藤委員	それでしたら、自分で入りたい部活な訳だから、それだったら通えますね。はい、わかりました。ありがとうございます。
教育長	喫緊の課題は、指導者をどうするかということです。これは市長さんには、その指導者について、例えば、市役所の職員の方などにも、希望制ですけど、そういうふうに希望する方がいれば積極的に地域の部活動の方に指導者として手を挙げてほしいなと思います。
市長	課題はですね、今、おっしゃられたように指導者とお金の問題があると思うんですよ。例えば、つくば市とかでは、学生がいたり、そういう人材が豊富なところは進めやすいけど、人材がいないところはどやって進めるのかみたいな課題があります。お金の面もそうです。保護者の負担をどうするか。自治体で負担してくださいみたいなのがきていますが、市長会では、これは国で全部面倒見るべきだということで意見書として出しています。国がそういうふうな方針で進めてるんだから、それは国で負担してくださいという、そういう要望をだしています。
教育長	令和5年度については、1つの学校で1つの部活動を実験的に地域移行のクラブチームとしての活動ということで、そこについては市の方でも1つの部活動だけなので、そこは保護者からの負担なしで

	<p>補助していただくということで、令和5年度は市の方で協力していただいています。</p> <p>次に、コミュニティ・スクールの方にいきたいと思います。</p>
齊藤委員	<p>よろしいでしょうか。資料の中で、コミュニティ・スクール学校運営協議会制度、目的のところで一定の権限というふうな言葉があるんですが、その権限というのはどのくらいの大きさなのか、学校長の運営する学校経営にどのくらい及ぼすのかというところは、どうですか。わかる範囲で教えていただければ。</p>
生涯学習課補佐	<p>校長が作成する学校運営の基本方針を承認するということの他に、学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べるができる、それと教職員の任用について教育委員会に意見を述べるができるということが一定の権限ということ、主なものはこちらでございます。意見を述べるということです。それが絶対ということではないというふうに理解しております。</p>
齊藤委員	<p>学校長がこういうふうな学校経営明細を提示し、それに対して、違うのではという意見がくることもあり、承認ができないというような場合も起こりますか。</p>
生涯学習課補佐	<p>そうですね、全くないということはないとは思いますが。</p>
齊藤委員	<p>権限がそこまである訳ですね。そうすると、なかなか、校長として経営していく中で、大変なこともでてくるのかなというのを心配してるところなんですけども。</p>
生涯学習課補佐	<p>それがやはりコミュニティ・スクールの以前のものと大きく違うところだと思ってまして、以前は地域に開かれた学校、開かれたってことなので学校に対しての意見とか、そういったことを申し述べることはできなかったんですね。今回、コミュニティ・スクールになりますと承認をするとか、意見を述べるということで権限が与えられてまして、地域とともにある学校作りというふうに変わってきた。これが一番、大きいところだと思います。</p>

齊藤委員	学校というのも考え方を徐々に変えてかなければということですね。
教育長	<p>ただ、校長が最初に作成する学校運営の基本方針の承認については、学校の基本的な方向性なので、そんなに理解を得られないことはないと思います。あくまで基本方針で、大体の最大公約数のところの理解は、地域の方に、そこは得られるのかなと思います。</p> <p>任用については、個人を、例えば、この先生の異動についてまで言及するとかという、そういうことではないです。任用については、個人対象ではないということです。</p> <p>時間になってしまいました。その他については、またありましたら出していただいて書面で回答をしたいと思いますので委員会の方にお願ひできればと思います。最後に一言お願いします。</p>
市長	<p>今日は、貴重な意見をどうもありがとうございました。例年になく大きな変化、項目があります。大きな項目を単年度でやるということで、職員も非常に今、大変になってます。特にコミュニティ・スクールにつきましても、人材とか、休日の部活動もそうですけども人材をどうするかなど課題があります。ですからその辺は地域の皆さんのご協力なしにはこの制度は、この4つ全部ですね、うまくいきません。そういう意味では、まず、ご理解をいただくのが先決でして、ご理解をいただいた上で進めていかないとと思います。ご理解がないと、結局、何も進まなかったということになりますので。教育委員さんにおかれましては、こういった制度に変わることを、そして地域の皆さんのご協力を是非お願いしたいということ、あらためて、多くの方に広めていただければ有り難いなと思っております。今日は、貴重なご意見をありがとうございました。また今後ともよろしく申し上げます。以上です。</p>
教育部長	ありがとうございます。それでは総合教育会議につきましては、以上で終了させていただきたいと思います。長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。
一同	ありがとうございました。